

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計	良くなる やや良くなる	乗用車販売店（従業員）	・ハイブリッド車の受注も少しずつ伸びており、株価等の動き次第では、今後に期待できる。
		乗用車販売店（営業担当）	・12月の後半に、新商品が発売される。また、1月からは春の需要期を迎えるため、現在よりは良くなる。
		設計事務所（所長）	・遊休地の競売が進んでおり、中心部での開発が徐々に進む。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街への来客数が落ち込んだ状態のままであり、回復していない。
		商店街（代表者）	・既存店の売上も上がらなければ、新規出店の売上高の増加だけでは厳しい状況である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・客及び同業者の動向から、品物がなかなか動かない様子がかげえる。スーパーやテナントなどに入っている店では、年末で閉めるところが出てきているが、販売箇所はかなり増えていることもあり、売上の増加は期待できない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・お歳暮が始まるが、例年通り厳しいことが予想される。特にこれと言った良い材料も悪い材料もないため、前年並みで推移する。
		百貨店（総務担当）	・一部に明るい兆しはあるが、大半の客は、依然として買物に慎重であり、来客数も増加する傾向にない。
		百貨店（営業担当）	・ファッション商品の秋物の動きが鈍く、単品売りに終始している。また、高額商品も今月は不振であり、年末を前にしても活気に欠けている。
		百貨店（営業担当）	・客の動向から、不要な物は一切買わないというのが、かなりシビアになっている。
		スーパー（企画担当）	・客が、商品の価格によって、買い回りしている傾向に変わりはない。また、これといったヒット商品がなく、消費を喚起する要素も当分見込めない。
		スーパー（財務担当）	・来客数は、昨年を上回る数字を確保しているが、売上、客単価は下がっている。
		コンビニ（店長）	・新しい客は来店しているが、競争相手も増えており、その分来客数が目減りしている。全体では、少し減少した状態で推移しており、厳しい状況が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	・現在は、重衣料以外の物が中心に動いている。今後は、気温に大きく左右されるが、コートなどの高単価の重衣料の売行きに期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・来月の新型車による販売増を期待するが、ガソリンの値上げなどによるマイナス要因が大きく、客の動きが悪い。
		その他専門店〔CD〕（店員）	・集客のある日とない日の差が激しいなど、全体的に波が大きい。
		観光型旅館（経営者）	・愛知万博が終わり、四国にも人の目が向いてきており、3か月先の予約状況は、良いわけではないが、今の良い状態が継続する。
		都市型ホテル（経営者）	・現行の予約状況はあまり変わらず、この1年間、ほとんど変わらない動きをしている。単価についても動きがないため、このままの状態が続いていく。
		旅行代理店（従業員）	・スキーツアーの売出しが始まっているが、出足は例年並みである。受験生の宿の相談も例年並みであり、大きな変動要因は無い。
		タクシー運転手	・景気の良い企業もあるが、地方では、節約傾向が強く、客の増加は見込めない。
ゴルフ場（従業員）	・3か月後は、季節的な要因を考えれば、状況は非常に悪くなる時期であるが、それを考慮せず考えれば、今月とあまり変わらない。		
設計事務所（職員）	・政府予算の公共事業抑制や地方財源の圧縮等があり、現状より悪くなることはあっても、良くなることはない。		
その他住宅〔不動産〕（経営者）	・土地の値下がりや買い需要の低迷は続いており、しばらく景気は良くならない。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・11月末で商店街内の大型店舗が撤退するが、その後が決まっていなかった。その大型店舗は、かなりの集客力や売上高があったため、商店街全体への影響が大きい。	
	百貨店（売場担当）	・同じ商店街にある大手量販店が11月末に撤退し、映画館も撤退が決まっており、来客数の減少が予想される。	

	悪くなる	スーパー（店長）	・先月は冬物の動きが良いと思っていたが、その後、暖かい日が続き、冬物の販売量が思うように伸びなかった。昨年は野菜・果物の相場高であったが、今年は相場安傾向であり、この傾向が継続する。	
企業	良くなる	-	-	
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・百貨店からの発注は厳しいものの、最近取り組んでいる新規開拓先からの受注実績が上がってきており、少しずつ明るさも見られる。	
		木材木製品製造業（経営者）	・着工数から考えて、秋口の数が少なかったため、その分、年明けに商品が若干動く。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	・全国的に大型クレーンの稼働率は高く、既存クレーンの老朽化による代替需要が一層高まってくる。	
		輸送業（支店長）	・新規案件が12月からスタートし、軌道に乗れば、年明けから売上高の増加につながる。	
		不動産業（経営者）	・松山市内の中心部の事業用の物件の依頼が多くなっている。また、そのような物件は少なく、地価が上がりつつある。	
	公認会計士	・客の話から、設備投資を考えている企業が増えている。また、資金繰りについても、ゆとりができている企業が増えている。		
変わらない		輸送業（役員）	・石油価格は高止まりの状態、一般の企業は、商品価格に上昇分を転嫁できない状態が続いている。一方、物流については、食品関係で、冬物商品が少し動いているが、全体としては、横ばいの状態が続く。	
		金融業（融資担当）	・高知県の産業の主体である建設・土木業は、引き続き公共工事の減少から厳しい状況である。	
		広告代理店（経営者）	・一部の得意先では、新規出店等で広告費増加が見込めるが、全般的には広告市場が小さくなっており、価格競争が厳しく、受注全体はあまり変わらない。	
やや悪くなる		化学工業（営業所長）	・石油関連の化学工業会社では、資材価格を大幅に値上げしているが、この資材に携わっている加工メーカー、販売店等は、競争激化から製品価格に上昇分を転嫁できず、財務内容を悪くしている。	
		建設業（総務担当）	・土木工事の受注ゼロの状態は、当面続く。また、建設関係では、耐震強度偽造問題が、当地のマンションブームに水を差す懸念がある。	
		広告代理店（経営者）	・原油価格高騰が、じわじわと効いてきている。顧客側での値下げ要請や、改善要求などが非常に厳しい状況で、従わざるを得ない状態がしばらく続く。原油原材料の資材は、かなりの割合で値上げとなりつつある。	
	悪くなる	-	-	
雇用	良くなる	-	-	
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・新卒者の求人は良好であり、即戦力採用市場も求人サイトの更なる浸透で、やや伸びる状況であり、やや良くなった状況で推移する。	
		変わらない	人材派遣会社（支店長）	・求人数は堅調に推移しているが、一方で支店の統廃合や業務効率化による人員削減の動きも耳にする。
			職業安定所（職員）	・一般求人は、建設業、サービス業で増加し、製造業、情報通信、運輸、卸・小売、医療・福祉で減少している。一方、パート求人においては、前年同月比、前月比共に増加している。
			職業安定所（職員）	・新規求職者数と有効求職者数は、共に前年同月比で3か月連続して増加した。主婦層を中心とした女性のパート求職者が増加しているが、自分の希望条件に合った求人があるまで待っている求職者が多く見受けられる。また、大規模小売店が11月末で閉鎖されることから、今後の雇用に与える影響が懸念される。
	学校〔大学〕（就職担当）	・採用活動は、これからほぼ収束に向かう時期に差し掛かっており、内定者数の伸びが停滞気味である。		
やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・年末及び年度末に向けて、需要は高まる一方で、登録者数が激減しており、客からの要望に応えることができないという状況である。募集コストもかかるため、非常に予断を許さない状況になっている。		
	悪くなる	-	-	